

2部 教会生活について

4章 奉仕

私たちは、教会における働きを「奉仕」と呼ぶ。

奉仕とは、「仕える」という生き方そのもの。仕事内容のことではない。

「仕える」＝「ディアコニア」(Servant) ——Deacons (執事) に発展。

奉仕——狭義では教会における働き。広義ではクリスチャンの生き方そのもの。

●仕える＝イエスの生き方

これは、イエスの模範に従うこと。

「人の子は、仕えられるためではなく、仕えるために来た」(マルコ 10 : 42～45)

「あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」(ヨハネ 13 : 1～15)

「仕える者の姿をとり」(ピリピ 2 : 7)

*教会において Service する側か、Service される側か、どちらに自分がいるか？

●奉仕の心得

*仕える心を持つ。

相手の必要のために喜んで自らを捧げる。互いの足りない部分を補い合う。

*報いは主から来る。

ヨハネ 2 : 9 「水を汲んだ僕は知っていた」

マタイ 6 : 20 「宝は天に蓄えなさい」

*賜物を活かして。

賜物に応じた奉仕の種類。

●誰に仕える？

神と人にと仕える エペソ 6 : 7 神と人とを切り離さない。

●仕えるリーダーシップ (Servant Leadership)

「偉くなりたい人は仕える者になりなさい。人の先に立ちたい人は僕になりなさい。」

(マルコ 10 : 43、44)

ピラミッド型の構造を引っくり返す。 「自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい。」

(マタイ 7 : 12)

●奉仕の実際

奉仕の目的は、キリストの体を建てあげること。(エペソ 4 : 12)

目的のために、自らを捧げる。奉仕は、自己実現の場ではなく、神の御心を実現する場である。

キリストの体の一器官として、共に奉仕し合う時に、キリストの教会が建て上げられる。